

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101721		
法人名	有限会社 杜の郷		
事業所名	ぐるーぷほーむ杜の郷本多 (3階 さくらユニット)		
所在地	石川県金沢市本多町3丁目11番23号		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイワイエイ研究所
所在地	金沢市桂町口45-1
訪問調査日	令和2年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

金沢市の中心部に位置し、兼六園や石浦神社をはじめ桜並木でもある犀川などを日常的にドライブや散歩できることもあり、利用者は金沢の名所を身近に感じながらホームで生活しています。グループホームの敷地内は地域の一時避難所やごみステーションとして提供しているほか、別館会議室は地域の絵手紙教室等に開放しており、地域の一員として協力関係を築いています。職員はほぼ全員が介護福祉士であり、認知症ケアの専門職という意識を持ちながら利用者本位の個別ケアに取り組んでいます。基本理念でもある「のんびり穏やかに自由な暮らし」の実現のため、職員は利用者の尊厳を守り共に支え合いながら生活しており、週3回の買い物や毎月の外食行事のほか、ドライブや散歩、個々の希望に応じて外出するなど、住み慣れた地域で利用者がこれまで通り生活できるよう支援しています。また、スタッフ間のチームワークが非常に良く、常に話し合いをしながら利用者のケアに努めており、フロア内は利用者職員との温かい雰囲気です。入所相談の見学者から「入居者とスタッフの笑顔が多くとても感じが良いので是非お願いしたい。」と言われることもよくあり、職員のモチベーションアップにも繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの目につくところに理念が掲示しており、毎月の職員会議で復唱し再確認している。また、理念に基づいて月間目標を掲げており、職員は目標達成を意識しながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は町会に加入しており、回覧板やごみ当番を行っているほか、代表者は新年会など地域の会合に出席している。また、事業所別館の会議室は地域の絵手紙教室や会合等に開放し、駐車場の一角は地域のごみステーションとして提供し利用されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、中学生の職場体験や高校生の訪問、歌のボランティア等を積極的に受け入れており、認知症への理解や支援方法をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、事業所の活動内容、利用者の状況やサービスの実際などを報告している。行政、民生委員、家族、地域の方々などがメンバーとなり、それぞれに率直な意見をいただき話し合いながらサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者は、金沢市グループホーム部会の部会長のほか様々な役員を務めている。生活保護をはじめ、市の担当者とは日頃から密に連絡を取り時には直接窓口に向くなどして相談に応じていただいております。事業所の実績やサービスの取り組みなどを伝えながら協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で身体拘束をしないケアについて話し合っており、全職員が正しく理解し実践するよう努めている。フロアや玄関は施錠せず、出て行きそうな人には行動を共にするなど、職員間で協力しながらケアしている。また、日頃のケアの中で身体拘束に繋がるような場面があれば、代替方法を考えるなど話し合いを行い取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止の研修を順次受講しており、研修内容は職員会議等で報告し、全職員で共有し学んでいる。特に「不適切なケア」について、日頃のケアがそれにあたっていないかを振り返り話し合ったり、意識して言葉かけや態度にも気を付けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、権利擁護に関する研修に参加したり会議等で話し合うなど学ぶ機会がある。成年後見制度については、利用者の状況に応じて家族等と話し合い、制度が活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて重要事項の説明を行っており、利用者や家族の不安や疑問にその都度答えながら理解と納得を図っている。制度改正等で契約書の改訂をする際は、事前に理由を説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や大半の家族とは日頃からコミュニケーションが取れており、いただいた意見や要望は家族会や職員会議等で報告し、それらを運営に反映させている。また、玄関には意見箱が設置しており、自由に意見を投書できるようになっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常的に職員の意見や提案を聞いており、運営に反映させている。毎月の職員会議でも率直な意見交換ができていくほか、代表者は年に1回程度、職員に個人面接を行っており、全職員が意見や提案ができる機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、個々の努力や実績を評価して、それに合った賞与や資格手当等を支給している。また、有給休暇や季節休暇は希望通り取得できており、リフレッシュしながら働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に応じて必要な研修は順次受講させている。また、様々な研修案内が閲覧され希望すれば自由に受講でき、年に1回は研修費用を事業所が負担する支援を行っている。研修内容は職員会議等で報告し、全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は法人内外の研修等に参加しており、勉強会や同業者と交流する機会がある。希望があればグループホーム部会の訪問研修にも参加している。また、認知症介護実践者研修の訪問研修を積極的に受け入れており、相互訪問の交流や意見交換を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人に会いに行き、困っていることや不安なこと、要望等を時間をかけて聞いている。本人の思いを受け止め共感しながら、安心かつ信頼を得るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた段階から時間をかけて家族等から話を聞いている。困っていることや不安なこと、要望などを真摯な態度で傾聴し、その都度質問にも答えながら信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で可能な限り本人にホームを訪れていただき、他利用者と一緒にお茶を飲むなどしてグループホームの雰囲気を感じさせるようにしている。入所に不安があれば体験入所も可能であることを伝え、少しでも安心、納得して利用できるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は年長者である利用者から生活の知恵や知識などを教えてもらい、共に暮らす者同士協力関係を築いている。本人のできることに目を向けて掃除や調理、縫物などで力を発揮してもらい、職員がそれをサポートし支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは日頃から情報交換を行い、職員と家族が協力し合って本人を支えていく関係を築いている。利用者の生活の様子は面会時や電話で伝えているほか、行事等に家族にも参加してもらう機会を作るなど、家族との絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の人が面会に訪れたり、電話や手紙のやり取りをサポートするなど馴染みの関係が継続できている。中には居室に仏壇を置き、昔からお世話になっているお坊さんに毎月ホームを訪れていただき息子と一緒に月参りをしている利用者もあり、これまでの関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や利用者同士の関係性を把握し、各利用者が居心地よく過ごせるよう適宜職員が間に入り支援に努めている。自然と利用者同士が助け合う場面も見られ、良い関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、新しい入所先の関係者に本人の状況やケアの工夫等の情報を伝え、環境が変わっても本人が安心して生活できるよう連携を図っている。家族から相談があれば適宜フォローし支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用車とゆっくり関わりながら、一人一人の思いや要望の把握に努めている。自己表現が困難な場合は、本人の表情や言動から思いを汲み取り、職員間で情報を共有し話し合いながら意向を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所日に本人や家族からこれまでの暮らし方などを時間をかけて聞き取っている。その後も本人との会話中から生活歴等を把握したり、面会に訪れた友人や知人からも情報を得るなどしてこれまでの暮らしを知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを尊重し、起床時間や食事時間など本人の希望に合わせて対応している。日々のバイタルや言動等を詳細に記録に残し、心身の状態や行動パターンを分析しながら暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議で、利用者の状態やケアのあり方について話し合い、利用者主体の介護計画を作成している。3か月に1回のモニタリングはもちろん、利用者の状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた点、重要な事象について個々の経過記録に記入しており、職員は業務前に必ず一読し情報を共有している。記録は介護計画に沿ったものとなっており、ケアの実践や評価等を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診に付き添ったり、希望があれば個別に買い物や喫茶店等への外出にも同行している。その際は職員を多く配置するなどして柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から本人の馴染みの喫茶店やスーパーに出かけられるよう支援している。地域の大正琴教室の方に来ていただき、先生からホームで個人的に大正琴を月1回習っている方もおり、ホームにいながらも好きな習い事が出来るよう地域と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もこれまでのかかりつけ医に受診できるよう、時には職員が受診に同行することもあり、家族と協力しながら支援している。状態に変化があればかかりつけ医に連絡し指示を仰いでいる。本人や家族の状況に応じて、訪問診療に切り替えることも提案するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回訪問看護ステーションの看護師が訪問しており、職員は利用者の日々の状態報告や相談をし、適宜受診に繋がっている。ステーションは24時間電話相談ができ、場合によっては急な訪問にも来ていただくなど、利用者が適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、本人の普段の様子やケアの工夫などを病院側に伝え、本人が安心して治療できるよう努めている。また、管理者等が病院を訪れて本人の経過を確認したり、病院でのカンファレンスに参加するなど、本人が出来るだけ早期に退院できるよう家族や病院関係者と協力して支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として「重度化した場合の対応に係る指針」を明文化しており、契約時に家族等に説明している。事業所が対応しうる支援方法については、連携する訪問看護ステーションとともに明確化しており、本人の状況に応じて家族等と話し合いをしながらチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は順次消防署の救急講習を受けており、応急処置やAEDの訓練を行っている。また、職員会議等で講習内容を振り返ったり、訪問看護師から急変や事故発生時の対処方法等の指導を随時受けている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時対応マニュアルがあり、訪問看護ステーションや主治医に24時間連絡できる体制となっている。また、職員の距離順連絡網があり、緊急時は近隣の職員から駆けつけられるような体制をとっている。行方不明時には警察の「おかえりねっ」とも利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関やかかりつけ医には日頃から相談したり情報交換するなど交流があり、入院が必要になったときは即対応していただくなど連携できている。また、関連する介護老人福祉施設とは、グループホームの生活が困難になった場合の受け入れ先として支援体制が確保されている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各フロア1名ずつ、計3名の職員がおり、緊急時は応援要請している。また、職員の距離順連絡網があり、緊急時には近距離の職員から駆けつけられる体制となっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を通じて、避難誘導、消火、通報訓練を全職員で繰り返し行い、運営推進会議等で訓練結果を報告している。また、町会の会合や運営推進会議の中で、地域の方々に災害時の協力を随時お願いしている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	防災マニュアルを作成し職員に周知して定期的に見直している。利用者の情報も含めファイルしており、緊急時に持ち出せるようになっている。非常時の備蓄品はリストに基づいて整備しており、定期的に点検し入れ替えをしている。停電に備えて石油ストーブ等を準備しているほか、事業所の駐車場は地域の一時避難場所にもなっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には常に敬意を払うことを基本とし、親しみを持ちながらも言葉遣いには十分気をつけ、人格やプライドを傷つけない対応をしている。トイレ介助等の際は、なるべく周囲に気づかれないようさりげなく声掛けしている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を表出できる環境を作るよう努めている。意思表示が困難な場合は、表情や反応を注意深くキャッチして自己決定できるように働きかけている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活できるよう、起床時間や食事時間を本人に合わせている。活動への参加は本人に任せ自由に過ごしていただいている。その日の過ごし方については、希望を聞き個別に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は普段よりおしゃれが出来るよう、本人に服を選んでもらいながら支援している。希望があれば洋服や化粧品と一緒に買いに出かけたり、行きつけの美容院や訪問美容でカットやパーマ、毛染めをするなど、本人のこだわりに応じられるよう努めている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える時は出来るだけ利用者の食べたい物や好きな物を取り入れている。買い物と一緒に出かけるときは食材を選んでいただくなどしているほか、個々の能力に応じて食事準備や後片付けと一緒に出来るよう支援している。毎月の外食行事の際は、利用者の食べたい物を聞いて計画を立てている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスの取れたメニューを心がけ、刻みやとろみを付けるなど、一人ひとりの状態に合わせた形態で提供している。食事が進まない時は本人の食べたい物で補食するなど、必要な栄養が摂取できるよう支援している。また、水分は小まめに提供し、適宜水分量をチェックしながら、一日に必要な水分が摂れるよう努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行い清潔保持に努めている。口腔内等に異状があれば、適宜歯科受診や往診が出来るよう支援している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者は全員トイレで排泄している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意が不確かな方はタイミングを見てトイレ誘導している。失禁量や昼夜によってパットを使い分けるなど、一人ひとりが快適に過ごせるよう支援している。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や牛乳やヨーグルトなどを提供するなど飲食物の工夫をしているほか、毎日の体操や歩行練習、近所への散歩など、個々に応じた適度な運動を取り入れて便秘の予防に取り組んでいる。医師や看護師の指示のもと、一人ひとりに状態に合わせて下剤を調整している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておらず、希望があればできるだけその日に入れるよう支援している。入浴を嫌がる方には無理強いをせず、時間をおいたり気分が乗るような声かけをするなど工夫し、個々のペースを尊重している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や日中の疲れ具合を見てながら、その時々で適度に休んで頂いている。夜眠れない方には、原因を見極め本来のリズムを取り戻し安眠できるよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報書はファイルしており、職員は必ず目を通して。利用者の日々の状態を観察し、変化があればすぐに医師に報告して薬の調整等を行っている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好きなこと、できることを把握し、役割や楽しみが持てるよう支援している。個別での外出のほか、居室の仏壇の月参りにお坊さんが訪れる方、ホームに講師を招いて大正琴を習っている方もおり、それぞれの楽しみごとの支援に努めている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物と一緒に出かけ、好きな買い物ができる機会が週3回あるほか、一人ひとりの希望に応じて個別に外出できるよう支援している。ホームで大正琴を習っている方が希望する外部の発表会を見に出かけられるよう、職員を調整するなどして普段行けないような場所にも出かけている。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族と相談の上小額のお金を所持していただいております。外出の際にお金を支払えるよう支援している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度ホームの電話から掛けていただいております。携帯電話を持っている方には自身で掛けられるよう工夫をし、希望に応じて操作をサポートしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には写真を掲示したり、季節に応じて花や植物を植えたり飾ったりしており、それを見ながら利用者同士会話が弾んでいる。フロアには加湿空気清浄機や床暖房、トイレや浴室にも暖房が設置しており、温度差に配慮しながら快適に過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、皆で座れるソファのほかに随所に椅子があり、その時々でひとりになれる場がある。フロアで人気を感じながらソファで寝ることが好きな方もいて、それぞれが安心できる居場所となっている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が今まで使用していたものを自由に持ち込んでいただいている。家具意外に仏壇を置いている方もおり、毎朝ご飯をお供えできるよう職員がサポートしている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には随所に手すりが設置してあり、トイレや浴室には利用者の状況に合わせて動かせる手すりもある。一人ひとりの身体状況に合わせて、杖や歩行器、車椅子などを使用し、車椅子からの移乗がしやすいようベッドにはL字型の柵を適宜使用するなど、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		